

いせはらしし しりょうへん おおやま

#13 伊勢原市史 資料編 大山 正・続

作者：伊勢原市史編集委員会（いせはらししへんしゅうい
んかい）

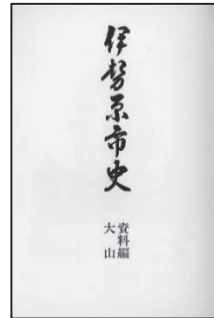
刊行：平成4年（1992） - 平成6年（1994）



📖 解題

■ 内容

『伊勢原市史』の「資料編大山」は、正編と続編の2巻から成る。正編は、大山信仰が民衆の信仰として、とりわけ隆盛をきわめた江戸時代の史料を中心に編集されている。「檀家帳」、「檀廻帳」、「檀廻収納帳」、「檀廻土産帳」に類する史料が収載されており、当時の国ごとに年代順に並べられている。巻頭にカラー口絵が入り、巻末の「解説」では、所収の83冊について、それぞれに説明を付している。また刊行に当たり調査の対象となった



[K21.64/7/2-2]

[K21.64/7/2-2-2]

378冊の檀家帳類を一覧表にまとめた「檀家帳等総目録」を収録している。

大山山麓に住み、布教活動を行うことで大山信仰に多大な影響力を發揮したのが大山御師である。参詣する檀家を先導したり宿泊の世話をしたりするなど、御師と檀家は強い関係で結ばれていた。御師が実際に檀家を訪れることを檀廻といい、そのための記録が檀家帳や檀廻帳にあたる。

所収の史料は、檀家の名前や住所を筆頭に、檀廻の日数やかかった経費、お札配りの方法、土産物の種類、廻る村々の順番など様々な事柄を示している。大山御師と檀家の実相を明らかにしている史料であり、関東一円の町や村で信仰を享受していた全体像を把握することができる。

続編は、江戸時代から明治時代にかけての大山史料のうち、正編で収録

第2章 歴史

していないものを収録し、「縁起」、「法度・朱印・山法」、「古記録・年中行事・地誌」、「霊場としての大山」、「安永の石尊宮普請」、「大山御師の檀家と檀廻」、「大山講と夏山祭礼」、「信仰の諸相」、「幕末の大山」、「大山の神仏分離」、「近代の大山」の全11章で構成されている。巻頭にカラー口絵が入り、巻末の解説では所収の216冊について、各々、説明を付している。

檀家帳類が中心であった正編に対し、檀廻についても含めて、大山信仰の成り立ちや山の内側からの歴史、御師の形成に関する史料などを広く収録した続編は、大山の概観と変容を理解する一助となる。

当館以外に国立国会図書館、横浜国立大学附属図書館、秦野市立図書館、鎌倉市図書館、二宮町図書館などで所蔵が確認できる。

■ 作者

昭和60年(1985)より『伊勢原市史』の編纂事業が本格的に開始され、伊勢原市史編集委員会が発足した。正編は、圭室文雄(たまむろ・ふみお)専門員と松岡俊専門補助員が中心となり資料収集・執筆・校訂を行い、圭室文雄が全体を監修した。続編は、圭室文雄と松岡俊が中心となり資料収集・校訂を行い、圭室文雄が全体を監修し、解題を執筆した。

圭室文雄は明治大学教授として教鞭を執る一方、茅ヶ崎市史や寒川町史などの編集に携わり、県内の市町史編纂を牽引した。

参考文献

『伊勢原の歴史 創刊号』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1986
[K21.64/6/1]

『大山信仰』圭室文雄編 雄山閣出版 1992(民衆宗教史叢書 第22巻)
[K17.64/33] [163.1/102]

『伊勢原市史 別編 社寺』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1999
[K21.64/7/3-2]

『相模・武蔵の大山信仰』関東民具研究会編 岩田書院 2011 [K38/234]